

平塚ロータリークラブ
会長 清水 裕

皆さま、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。

14日の専門家会議を経て、政府は36県の緊急事態宣言を解除しました。しかし、神奈川県をはじめ8都道府県の解除は先送りとなりました。本日（20日）現在、関西3府県の解除の可能性を含め 明日の専門家会議の状況を注視するところです。ただ残念なことに、本県での解除は今回も難しいようです。

3月4月5月もしかして6月も続く自粛は、経済のみならず様々な方面に多大な影響を与えています。政府の支援策が、スピート感を欠き、規模的にも不十分なため、救える人や会社を救えない状況へ押しやっているようにも見えます。会員の皆様にとっても、悩ましいというより苦しい状況を推察いたします。

ロータリーにおいても、R I、地区、第8グループそれぞれに様々な課題を抱えているようです。特に寄付状況の厳しさ、会員維持の困難、休会対策など、各クラブとも問題山積の中にいます。もちろん、平塚RCにおいても状況は同様ですが、現状で可能な活動を探ってまいりたいと考えております。例会の持ち方、医療機関への寄付、会員相互のコミュニケーション維持など、理事役員の方々のご意見も頂きながら進めてまいります。また、ご連絡させて頂きました情報集会における会員の皆様のご意見ご提案については、真摯に受け止め可能か限り具体化したく存じます。ぜひとも、多くのご意見を頂ければ幸いです。

（忙中閑あり）

さて本日は、少々毛色の違ったお話をひとつ。

皆さん、「町中華（まちちゅうか）」という言葉をご存知ですか。いわゆる、どこの街角にもある庶民的な中華料理屋さんのことです。もともとは、2014年に「町中華探検隊」として中華料理屋を訪ね歩くネットから始まったようです。その後「散歩の達人」2015年9月号に町中華の連載が始まり、徐々に認知が広がりテレビや情報誌に取り上げられました。

その中では、町中華の定義なるものがあるようです。

- ・ 千円以内で満腹になれる
- ・ 麺類、飯類、定食など多彩な味を提供
- ・ 長時間並ばないと食べることが出来ない店ではない
- ・ 店主の人柄も、味の一つ

そして共通するのが「ゆるさ」。つまり中華と名乗っていながら、なんでも提供できる店。一般的には、ラーメン、餃子、炒飯そして中華丼とか冷し中華など、腹も満たすしビールのあてにもなるラインナップ。東西の差もあるらしい、例えば天津飯の餡は関東では黒っぽいですが関西では白っぽく、餃子と合わせるのが定番らしい。今どきであれば、店に行かずとも出前でとることが出来る。バイクや自転車の後ろについた出前機で運ばれる料理は、水平を保って汁がこぼれないという日本が誇る大発明の恩恵を受けられる。

BSTBSの「町中華で飲ろうぜ」（月曜23時）では、タレントがいろいろな街の町中華を訪ねて、上手い料理とうまい酒を飲むという番組。夜11時にこれを見るのは目の毒だとは思いつつ、昼とはまた違った夜の町中華の魅力を堪能させてくれる。この番組のこだわりは、生ビールでなく瓶ビール。大瓶633mlを、「大人の義務教育」（小6年中3年高3年）と称してうまそうに飲む。そして、つまみは「あたま」。蕎麦屋の「むき」と同様、例えば五目ラーメンの餡だけ。どの店でもやってくれるかわかりませんが、「あたま」だけなら腹いっぱいにならず、いろいろな料理を酒の肴にできますよね。

外出自粛ではありますが、いつか、また町中華で一杯飲りたいものです。

新型コロナウイルスとの付き合いは、どうも長くなりそうです。生活様式が、それに合わせたものになっていくことは必然でしょう。でも、その中で日常を取り戻す努力も必要だと考えます。改めて「正しく恐れる」ことを徹底して、前とは違った日常を送りましょう。また、皆さんにお会いできる日を楽しみにしております。くれぐれもご自愛ください。